

# 会う度「ごめんね」しんどいよ

## いま子どもたちは 親が離婚した…7

2004年12月、新潟県。雪の降る日、母(44)が突然、家出した。高校2年のリョウガ君(17)は9歳、妹で小学6年のミウさん(12)は4歳だった。

「仕事に追われ、家を大事にしていなかった」。父の片山知行さん(41)が必死で行方を捜した。だが、再会したときには母の離婚の意思は固かった。

親権をめぐるもめた。実家に頼れることや学校のことなどを考え、片山さんが育てることになった。「子どもらは母親の方がよかったのかもしれないし、本当に申し訳なかったけれど、黙ってついてこいって」翌年、父子3人の生活が始ま

った。リョウガ君は「嫌だ。4人で暮らしたい」と泣いてばかりいたが、次第に生活に慣れてきた。「周囲にも1人親家庭が多かった。まあ、普通かな」と

でも、離婚当初は事情がのみに込めていなかったミウさんは次第に不安定になった。母の日に保育園で似顔絵を描かされるとき、テレビで幸せそうな母子の映像が流れたとき……ひとりでしょんぼりしていた。「お母さんが出て行ったのは、ミウがお



父さんを好き好きって言いすぎたからかな」と思ったことも。

片山さん(中央)と話しながら、リョウガ君(右)は店を手伝い、ミウさん(左)は宿題をする。新潟市

昨春、離婚以来、ほとんど会っていなかった母との交流が始まった。「会っておいた方がいい」と考えた片山さんが連絡を取り、リョウガ君もミウさんも直接、携帯でやりとりをしている。「明るい人。いい関係ですよ」とリョウガ君。一方、ミウさんは「お母さんが好きだけど、2人だとなんか話せばいいのかわかんない」。会う度に「ごめんね」と言われる。それも、

何となくしんどい。「もう、いいの。今の家族の形が安定しているし、幸せだから」

2人とも、家族4人で暮らしたいとは思っていない。ミウさんは「一度、壊れちゃったものを戻すのは大変だと思う」。片山さんが昨夏、JR新潟駅近くにオープンさせた居酒屋で、開店前に3人で過ごす時間が好きだという。リョウガ君も言う。「父と母は合わなかったんですよ。それに、離婚も1人親も、自分の生活にあんまり関係ないかな。今の生活、結構いいですよ」(古田真梨子)